

平成29年度 授業改善プラン

1 昨年度の改善プランに対しての検証

- (1) 「言語活動の推進」では、思考力を培うために、ねらいを明確にした授業展開について研究を進め、授業改善を図ってきた。算数科では、自分の考えを友達の考えと比べて、思考力をより深める授業について充実を図ることができた。また、国語の授業に限らず、朝の学級活動や全校朝会など学級・学年・学校全体の場で、全児童がスピーチを行うことができた。
- (2) 「学習指導方法の工夫・改善」では、算数科で行った研究授業での成果を全学年に周知し、全校で取り組むことができた。算数科では、問題・めあての把握、自力解決できるための見通しを確実にもたせること、自力解決、思考を深めるための交流、振り返りなどの学習活動をパターン化し、児童にとって分かりやすい授業の展開に取り組んだ。
- (3) 「学習指導体制の工夫・改善」では、2年以上の算数科での習熟度別指導を行った。習熟度に合わせて、基礎的な学習を徹底して身に付ける工夫、発展的な学習に取り組ませることによって意欲をもたせることができた。また、算数科以外の学習では、一斉授業以外にも、グループ別によるディスカッションやペア学習によって、自分の考えを話しやすい場を作ることができた。
- (4) 「基礎学力の徹底」では、算数科を中心に、成果を導き出すために平日補習、土曜補習、夏季補習などを行った。土曜補習では、全教員が順番に指導に当たり、ほぼ個別指導に近い形でつまずきの克服への手だてができた。夏季補習では、3日間の参加率が学校全体で児童数のべ140%となり、短い期間ではあるが、集中して取り組むことができた。夏季補習では、大田区漢字検定に向けての練習も取り入れ、9月の大田区漢字検定の合格率を上げることが期待できるほどの上達を見せた。今年度は、補習すべき児童を意図的に精選し、補習すべき児童に対し、少人数グループにして指導できた。
- (5) 「読書活動の推進」では、読書の継続的な紹介活動ができた。友達の薦めた本を読んだり、お話会で紹介された本を読んだりすると読書の質も広まった。「スクールサポートしもだ」のコーディネーターや読書ボランティア、地域の区立図書館の協力を得て、図書室・図書コーナーの充実を図った。また、図書サポ（学校支援地域本部）の方による読み聞かせも全学年計画的に行い、児童も楽しみにしていた。「多摩川図書館の10回利用で表彰」など、読書活動の推進が図られた。昨年度後半から読書学習司書の配置により、より効果的な図書の授業、および環境整備がなされていることが、児童により読書を親しいものになっている。
- (6) 「教員の授業力向上」では、研究授業を一人一回行い、研究部会での授業検討、授業後は全体での検討を行い、研究授業を学校全体で共有できるようにした。特に各自の一年間の授業研究テーマを共有することで、授業を見合う視点が明確になった。今年度は、1学期に指導課訪問があり、各教員が具体的指導を受けることができた。日常的には、いつでも他のクラスの授業を参観できる雰囲気を持ち、意見交換できるようにした。
- (7) 「落ち着いた教室の創造」では、落ち着いた生活と、学力向上は大きく関わっていることから、生活指導部会、研究部会を中心に、落ち着いた教室の創造に向けて話し合いを行って、教員同士で情報を共有できるようにした。特に今年度は、年度途中の校舎移転があり、落ち着かなくなるのでは

ないかと心配されたが、教職員が児童から目を離さずに見守ったこと、限られた場所を有効活用し運動量の確保に努めたこと、生活指導として決まりの徹底を行ったのが功を奏したのか、狭い空間の中でもほぼ事故なく過ごせた。狭い校庭、移動して借用した中学校体育館・武道場でも朝会での話の聞き方は、よくできている。特に、高学年が見本となれるような雰囲気をつくることができて

- (8) 「家庭・地域との連携」では、主に、「スクールサポートしもだ」のコーディネーターによる体験授業・夏休みわくわくスクールの実施により児童の主体的な学びを重視することができた。また、「家庭の学びのすすめ」により、10分×学年の家庭学習の定着に努めた。「早寝早起き朝ご飯週間」は、生活習慣を見直すよい機会となるが、大田区で決められている5月10月以外にも、8月の登校日以降の1週間も取り組み、2学期のスムーズな学習習慣への移行を行うことができた。
- (9) 「中学校との連携」では、小中一貫教育を目指し、中学校との連携を密にすることができた。2学期には、中学校生活指導主任による出前授業、生徒会の説明会や体験授業が予定され、小中一貫の日の研究授業の参観、生活目標「みらいのわたし」の統一などを行っている。隣接している特性を最大限に活用したため、円滑な小学校と中学校との接続ができた。

2 学習効果測定の結果から

<国語>

どの学年でも、国語の校内平均正答率が目標値を上回っている。

問題の内容別正答率では、「話し合いの内容を聞き取る」、領域別正答率では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、観点別正答率では、「話す・聞く能力」、「書く能力」で目標値に届いていないものがあつた。

このことから、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域にやや課題がみられるため、今後、指導を充実させていきたい。

特に、必要な情報を取捨選択して聞き取る力、聞き取ったことをまとめた的確に表現する力を育てることが必要である。また、自分の考えやわかったことをノートやワーク・作品にまとめ、書かせたきりにならず、必ず、教師からのコメントや友達とで見合ったり、感想・意見を話しあったりさせていく。国語の他の領域との関連を意識して指導していくようにする。また、国語の授業の中で身に付けた力を他の教科等の中でも活用していくことで、一層の学力向上を図る。

<社会>

4年5年は、教科の校内正答率が目標値を上回っている。しかしながら6年においては、目標値を下回った。特に6年の知識理解が低い。

このことから、今後は、児童が社会的事象を表面的に理解するのではなく、自分の経験や地域教材と結び付けて理解を深めるとともに、学習したことを自分の生活に生かしていくことができるようにしたい。そのためには、問題解決的な学習を一層推進し、他の事象と関連させながら考察する活動や、考察したことを記述したり話し合ったりする活動を十分に行っていく。

<算数>

どの学年も正答率が目標値を超えている。ただし、領域別正答率を見ると、「量と測定」がふるわない学年が見られた。また下位にいる児童が見られる点が課題である。

東京ベーシックドリルや大田区ステップアップ学習プリント等を活用し、基礎的な計算の量をこなすことも確実な定着につながると考えられる。

<理科>

「自然事象への関心・意欲・態度」の正答率は、目標率を超えている学年が多い。しかし、「科学的な思考・表現」や「自然事象についての知識・理解」については課題がある。観察や実験の結果から考察することが苦手で、論理的に考えようとする意欲が高くない児童が見受けられる。また、説明が大まかで、理科用語を用いた的確なものになっていない場合が多い。科学的・論理的な思考と理科用語の正確な習得が必要である。

3 授業改善に向けた視点

(1) 基礎学力の徹底

国語の読み物単元は、必ず全員に音読をさせ、単元ごとに音読の評価をしていく。4年生以上は、大田区効果測定結果資料のフォローアップシートの4教科分を夏休みの宿題や補習として渡し、前学年までの個々の弱点補強をさせる。算数科を中心に、平日補習、土曜補習、夏季補習などを行う。夏季補習では、大田区漢字検定に向けての練習、東京ベーシックドリルの算数を行う。夏季補習中、特に算数の指導が必要な児童には、前学年の算数単元を絞って指導していく。土曜補習では、全教員が順番に指導を割り当て、少人数で指導にあたる。

(2) 教員の授業力向上

定期的にテーマを決めて研修会を行い、全体的な指導力の向上を図る。他のクラスの授業を参観できる雰囲気を持ち、意見交換できるようにする。通常の学級（担任・専科）と特別支援通級（言語担任・特別支援教室担任）とで授業を見合うことで、提示の仕方など、日ごろとは違った視点で授業づくりに生かす。管理職も、教員も共通の相互評価カードで見とり、各教員の年間の課題に合わせた協議ができるようにする。

改善指導案（略案）は、校内共有資料として整理されたフォルダに保存し、電子データでいつでも誰でも見られるようにしておく。

また、校内のOJT研修で、板書・発問の工夫、机間指導の仕方、指名の工夫等を学び合うことにより授業力の向上を目指す。

各教科主任が、他校の指導教諭の模範授業を参観し、そこで学んだことを校内の他教員に報告することで授業力向上に努めていく。

(3) 学習指導方法の工夫・改善

めあてを明確にした授業を展開し、児童にとって分かりやすい授業となるようにする。振り返りに重点を置き、理解が低い場合は復習を行う。教師の発問は、児童相互の様々な意見が出るような発問を工夫し、児童相互が学び高め合う授業づくりをしていく。授業の初めに全員挙手、あるいは全員に声を出させることで、授業の開始時に児童全員が授業への参加意欲をもたせられるようにする。

一時間の授業のまとめや感想などをノートやワーク等にかかせる活動を入れる。友達の書いたものを見合うことで、学び高めさせる。書いたものは、1週間以内に教師や友達が見るようにし、書かせたきりにせず、次時の授業に生かしていく。

体験的な学習を通し、児童が主体的に実感できる学習を大切にする。グループ別指導、ペア学習など様々な授業形態を実施し、児童が分かる授業、一人一人が達成感を味わえる授業を展開する。

(4) 読書活動の推進

読書紹介カード“shimozon”により、読書の質を広げる。また、学校支援地域本部の図書サポや地域の図書館の協力を得て、図書室・図書コーナーの充実、読み聞かせの充実を図る。また、シリーズ本の紹介活動により、読書の量を増やし、読書による「読みの基礎体力」を身に付ける。

(5) 生活指導と学習指導の関連付け

学習時の約束（志茂田小の約束と志茂田小の発表、聞く、話す約束）を丁寧に指導し、徹底させる。

学習に落ち着いて取り組ませるためには、生活指導や道徳の授業の充実を図る。特に毎月の生活目標を周知し、早寝早起き朝ご飯週間、あいさつ週間、家庭学習週間など、基本的な生活習慣が定着できるように取り組みを行う。

(6) 家庭学習の定着、宿題の出し方

「家庭の学びのすすめ」により、10分×学年の家庭学習の定着に努める。宿題の内容が学年に合っているかを夏季休業中に検討し、学年に合った宿題を出す。また、基礎学力定着のために宿題の他、思考力を伸ばす学習等も工夫して出していく。定着しにくい部分の学習内容は、意図的に宿題として反復学習させるようにする。担任は、やってきた宿題を確実に見る。家庭学習週間を設定し、家庭学習チェックカードを活用する。

(7) 家庭・地域との連携

「スクールサポートしもだ」のコーディネーターによる体験授業・夏休みわくわくスクールを引き続き行い、児童の体験的な学びを重視する。また、「家庭の学びのすすめ」により、学年×10分の家庭学習の定着に努める。チェックカードを活用する。「早寝早起き朝ご飯週間」は、生活習慣を見直すよい機会となるため、昨年度と同様に、大田区で決められている5月10月以外にも、8月の登校日以降1週間取り組ませ、2学期のスムーズな学習習慣への移行ができるようにしていく。道徳授業地区公開講座や学校公開、地域教育連絡協議会などで本校の教育活動のうち重点内容を、保護者・地域に理解していただき、協力を要請していく。

(8) 中学校との連携

小中一貫教育を目指し、中学校との連携を密にする。生徒会の説明会や体験授業、研究授業の参観、生活目標の統一、中学校教員による生活指導、夏季補習教室の際の中学校生徒による採点ボランティア等、隣接している特性を最大限に活用する。また、校舎改築に伴い、給食室、プール、校

庭、体育館などを共有することにより、更なる連携が期待される。

4 授業改善プラン

<国語> 改善のポイント

必要な情報を取捨選択して聞き取り、自分の言葉でまとめて表現する力、自分の考えを豊かな語彙や表現方法を使って書く力を育てること

(1) 学習効果測定の実績

どの学年でも、国語の校内平均正答率が目標値を4ポイント以上、上回っている。観点別正答率では、「言語についての知識・理解・技能」はどの学年も目標値を上回っている。

(2) 課題

問題の内容別正答率では、「話し合いの内容を聞き取る」、領域別正答率では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の観点別正答率では、「話す・聞く能力」、「書く能力」で目標値に届いていないものがあつた。

このことから、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域にやや課題が見られるため、今後、指導を充実させていきたい。

(3) 改善策

特に、必要な情報を取捨選択して聞き取る力、聞き取ったことをまとめた的確に表現する力を育てることが必要である。また、自分の考えを豊かな語彙や表現方法を使って書く力を育てる。授業の中で自分の考えやわかったことを書く際には、教師がモデルとなり書き方を示す。国語の他の領域との関連も意識して指導する。また、国語の授業の中で身に付けた力を他の教科等の中でも活用していくことで、一層の学力向上を図る。

1年

観点	現状	改善に向けての方策
国語への 関心・意欲・ 態度	<ul style="list-style-type: none">平仮名の学習に意欲的に取り組むことができている。読書が好きで読み聞かせも興味をもって聞いている。	<ul style="list-style-type: none">読み聞かせの機会を増やす。学級文庫を充実させたり、授業に関連した本を薦めたりし、本に親しむ環境を意図的につくる。言葉遊び、言葉集めの活動を通して、国語に関心をもたせる。
話す・聞く 能力	<ul style="list-style-type: none">自分の思っていることをはっきり話せるようになっている。人の話をよく聞ける児童はいるが、必要な情報を聞き取ることができない児童もいることが課題である。	<ul style="list-style-type: none">日直のスピーチを始めて、人前で話したり、聞いたりする活動を多く取り入れる。大事なことを落とさずに聞き、質問をしたり、感想を言ったりする場面をつくる。

書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な文章が書けるようになっている。 ・平仮名の使い方、句読点の打ち方が不十分なため、書きたいことがうまく表現できない児童が多いことが課題である。 ・特殊音節を理解していない児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳に宿題や簡単な連絡を書いたりするなど、日常的に書く活動を多く取り入れ、書くことに慣れさせる。 ・視写の機会を増やし、たくさんの文型に触れさせる。 ・多層指導モデル MIM で実態を把握し、基本的な文法を押さえる。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で毎日音読を行い、多くの児童が意欲的に何度も読んでいる。 ・文字だけでは、読み取ることが出来ない児童がいる。 ・リズムよく読んだり、会話文を人物になりきって読んだりするなど、工夫して読むことができています。 ・登場人物の特徴や様子を捉えたり、内容を理解したりすることは、よくできている。 ・登場人物の心情を読み深めることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の学習を継続して行う。 ・いろいろな読み物に触れさせる。 ・文章を指でなぞらせながら、音読をする。 ・音読劇や役割読みなどを行い、場面や人物の様子を想像しながら楽しく読めるようにする。 ・読書紹介カードを活用し、登場人物の心情を書き、考える機会を多く設ける。
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢、口形に気を付け、はっきり発音することを意識するようになっている。 ・長音・拗音・促音や「はをへ」の学習を行ったが、文章中で正しく使うことができない児童が多いことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ言語事項を文の中で使えるよう、繰り返し練習する機会をつくる。 ・漢字の正しい筆順を覚えさせ、文字の成り立ちや形に関心をもたせる。

2年

観点	現状	改善に向けての方策
国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の学習には意欲的で、読み聞かせも好きである。説明文には苦手意識をもつ児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書紹介カード「shimozon」の活用を引き続き行い、友達と感想を伝え合う。 ・並行読書の場を用意し、目的意識をもって読書する姿勢も養う。
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・今週のニュースなどでのスピーチでは抵抗感なくできている。また、聞いている側も内容に応じた質問をしていると共に、発表側も質問に対する返答ができている。 ・場に応じた話し方の使い分けが身に付い 	<ul style="list-style-type: none"> ・より具体的に伝えられるよう、徐々にスピーチ原稿を長くしていく。 ・話形を常に示すようにし、場に応じた話し方を意識できるようにする。

	ていない様子が見られる。	
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> 作文に対して抵抗はない様子だが、はじめ・中・おわりを意識して書くことや、必要なことを押さえて書くことが苦手な児童が比較的多い。 かぎ括弧や句読点を必要に応じて用いることができない様子が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の作文の他に、引き続き週末の宿題として日記に取り組ませ、文を書くことへの抵抗感をなくしていく。さらに、作文の決まりを指導し、定着させていく。 「かくってたのしいね」を用いて、定着を図る。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 読書や音読の活動に好んで取り組んでいるため、長い文章を読む力は身に付いているものの、読み取る力が弱い様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵などを有効に活用し、場面の様子を想像しながら読むことで、内容を読み取りやすくする。また、指示語なども細かく確認することで、読み取る力を養っていく。
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の学習にはほぼ全員の児童が意欲的に取り組む。しかし、定着に差があり、作文で用いることを苦手としている様子が見られる。 話し言葉と書き言葉の使い分けができないことも課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き漢字テストを定期的に行うことで定着させると共に、文章を漢字で書く問題にも取り組み、意味も定着させていく。 書いたものの読み返しや友達と見合う機会を設け、見直しができるようにする。

3年

観点	現状	改善に向けての方策
国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせが好きな児童が多い。読書量には差がある。 音読や言葉遊びを楽しむ児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動や読み聞かせの時間を確保する。読み聞かせをした本を教室に置く等、読書量が少ない児童が本を手取る工夫をする。 音読や言葉遊びを通して、語彙を広げる。
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> 話をすることは好きだが、相手が分かる話をしようとする意識は低い。 話を最後まで聞けない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用し、話す内容と組み立てを意識させる。 聞く姿勢を常に意識させる。学習の中で、少人数での話す、聞く活動を取り入れる。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> 作文への苦手意識をもつ児童がいる。 組み立てを意識して書くことには課題のある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文型やヒントになる言葉を示し、文を書くことへの抵抗感をなくす。 組み立てを意識させるために、ワークシート等を活用する。 書いた文章を読み合い、よいところを見つけて認め合う活動を取り入れる。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 物語文の音読には意欲的に取り組むが、 	<ul style="list-style-type: none"> 叙述を基に登場人物の心情や、出来事の変

	<p>登場人物の心情や場面の移り変わりを正しく読み取れる児童が少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明文では、問いと答えの関係を理解し、説明文の読み取りができるようになった。 	<p>化を捉えられるよう、ラインを引いたり、ワークシートを活用したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明文では、更に、段落相互の関係を考え、書かれていることの内容を明確に読み取る力を高める。
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・テストでは正しく漢字を書けるが、文章の中で積極的に使える児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典を日常的に活用する習慣を身に付けさせ、言語に慣れ親しむ環境を整える。 ・文の中で漢字を書く練習を重ねる。

4年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの違いを出し合って、友達との考えの違いに気づき、楽しむことができる。 ・読書が好きで、平行読書を意欲的に行う。俳句や詩などを作る学習に意欲的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない言葉などを自主学習の中で自発的に調べられるように意識させる。
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の中では、意欲的に発言できるようになってきたが、全体の場で自信をもって発言できる児童は多くはない。 ・最後まで集中して聞くことには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数での話し合い活動を進め、自分の考えを伝える練習を重ねる。 ・「聞き方・話し方」のルールを提示し、常に意識させる。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに慣れてきたが、読み手を意識して、分かりやすく書くことには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5W1Hを意識して書かせるようにする。 ・文を読み直し、推敲する意識をもたせる。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に登場人物の心情を読み取ったり、説明文の段落構成を考えノートに書いたりすることができる。 ・問題文などの読み取りでは、大事なことを見付けることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述に即して読むことを意識させる。 ・あきらめないうで、繰り返し読むことを身に付けさせる。
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・テストでは正しく漢字を書けるが、文章の中で積極的に使える児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字ミニテストでは、文を使って書く練習を重ねる。 ・音読の習慣を付ける。

5年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
----	---------	-----------

国語への 関心・意欲・ 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値を上回り、国語への関心・意欲・態度が定着されていると考えられる。 ・話を聞くことに関する関心・意欲・態度は目標値を上回っている。大事なことをメモを取りながら聞き、表現することは難しかった。 ・書くことに関する関心・意欲・態度は、目標値を上回り、昨年度からの伸びがある。 ・読書や漢字練習などに、積極的に取り組む児童が多く、定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書への関心はある児童が多いので、読書時間の確保、読書紹介活動などを引き続き行う。 ・話の要点を考えながら聞くことや、大事なことをメモする活動を日常的に取り入れることにより、聞くこと話すこと書くことの力を伸ばす。
話す・聞く 能力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。 ・話を聞き取ることはできているが、自分の伝えたいことを詳しく的確に話すことは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞いて、聞いて、聞いてみよう」の学習を生かし、相手に合わせて話す聞くことができるような活動を取り入れる。 ・日直のスピーチを継続的に行い、話すことへの抵抗を減らす。 ・スピーチでは、伝えたいことを的確に話せるようにポイントを示す。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値を上回り、昨年度からの達成率が伸びている。自分の意見とその理由を区別して書くことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、自分の考えを書く場合、構成を考えて書く。はじめ・中・終わりの構成を意識させ、段落の使い方や、ある程度の長さの文を抵抗なく書く活動を続けていく。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。説明文・物語文共に、読み取る力は付いていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取りのテストでも、正答率が高い。授業では、教科書の文だけでなく、並行読書を活用している。児童の興味関心をもった読み物を読むことにより、さらに、読む力が付くと考えられる。
言語について の知識・理解 ・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。漢字の習熟はよくされていると考えられる。 ・日常の文章の中で習った漢字を使うことが定着できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟できた漢字を活用できるように、作文指導を行う。 ・文章中の平仮名を漢字に直す学習を取り入れる。 ・主語、述語、修飾語などの文の構成の理解については引き続き学習が必要である。

6年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
国語への	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果では、目標値を上回 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書への関心が全体的に見ると、高くない。

<p>関心・意欲・態度</p>	<p>っており、区の平均に達している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、国語に関心をもって取り組むことができている。 	<p>個人的に見ると、本が好きな児童も多くいる。学年全体で、本に親しむ態度を養っていくようにする。</p>
<p>話す・聞く能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果では、目標値を上回っており、区の平均に達している。自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合おうとすることについての問題の正答率が低いことが課題である。 ・普段、日直のスピーチを行っているが、内容に対する自分の考えを深めることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の意図を考えて話を聞く機会を増やす。また、記述の正答率が低いことから、聞いたことを基に自分の考えを記述する活動を多く取り入れる。 ・自分の考えがなぜそこに至ったのか、理由を明確に述べられるような場を設けていきたい。
<p>書く能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果では、目標値、区の平均に達している。「書くこと」の観点の問題では、どの問題も目標値を上回った。資料と話し合いを正しく読み取り、適切に書き直す問題では、他の問題と比べると目標値を上回ってはいるが、やや低かったので課題であるといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことへの抵抗は少なくなっている。継続して作文や詩を書くなどの活動を行う。しかし、限られた文字数で内容を濃くすることが苦手であるので、決められた範囲内で文章をまとめられる活動を取り入れる。 ・国語に限らず、自分の考えや友達の考えを聞いて自分の考えが深まったり広まったりしたことなどを表現できるような機会を多くする。
<p>読む能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果では、目標値、区の平均には達している。しかし、資料と話し合いを正しく読み取って考える問題が、目標値を下回っている。文章の内容を読み取ることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文中の重要な言葉に着目させたり、登場人物の心情を類推させたりするなど、文の読み取り方の指導を継続して行う。 ・比べ読みや推敲などの読みの工夫により、より深く読み取ることができるようになる。
<p>言語についての知識・理解・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果では、目標値を大きく上回っている。言語についての知識・理解・技能は、定着してきている。しかし、作文やノートへの記述など、文章の中で習った漢字を使うことが定着できていない児童もおり、普段から、漢字や効果的な表現を使いこなすことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の反復練習は引き続き行う。 ・漢字を文の中で積極的に使う活動や、効果的な表現の例を挙げて、積極的に使う活動を取り入れる。 ・毎週の小テストを引き続き行い、漢字を書き取る力を定着させていく。

<社会> 改善のポイント

問題解決的な学習を推進し、他の事象と関連させながら考察する活動や、考察したことを記述したり話し合ったりする活動を十分に行う。

(1) 学習効果測定分析

第4学年、5学年の教科の正答率が目標値を上回っている。「基礎」と「活用」では、第6学年の「基礎」、第4学年、6学年の「活用」で課題が見られる。観点別に見ても第4学年、6学年の「関心・意欲・態度」、「知識・理解」に課題がある。

(2) 課題

目標値を上回っているが、全国平均を下回っていたのは、4年生の「生産や販売」、5年生の「安全を守る活動」、6年生の、「国土や自然などの様子」、「情報産業や情報社会」である。

国土や自然などの様子についての知識理解が他の領域に比べると低く、社会的事象への関心・意欲・態度が低い。また、聞き慣れない社会的事象への学習定着が低い。

(3) 改善策

今後は、児童が社会的事象を表面的に理解するのではなく、自分の経験と地域教材と結び付けて理解を深めるとともに、学習したことを自分の生活に生かしていくことができるようにしたい。そのためには、問題解決的な学習を一層推進し、他の事象と関連させながら考察する活動や、考察したことを記述したり話し合ったりする活動を十分に行いたい。

3年

観点	現状	改善に向けての方策
社会的事象への関心・意欲・態度	・自分の住んでいる地域や大田区に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。	・自分の目で直接見たり、体験したりしたことから、学習問題をつくり、問題解決学習を取り入れていく。
社会的な思考・判断・表現	・大田区内では、土地の高低差や鉄道網・道路網によって土地の使われ方に違いがあることに気付くことができる児童が多い。しかし、それを分かりやすく記述し、説明することには課題がある。	・見てきた事と資料や地図帳など比較しながら、地域の成り立ちや特色を考えていく。 ・自分の考えを伝えたり、友達の考え方を聞いたりする交流の場を、意図的に取り入れる。
観察・資料活用の技能	・大田区内の様子を調べてまとめることができる児童が多い。しかし、資料を参考に考察したり工夫して表現したりすることには課題がある。	・資料から読み取れることを発表させて、観察や資料活用の力を伸ばす。 ・鉄道、道路、方位を意識しながら、資料等の読み取りをするようにする。
社会的事象についての知識・理解	・大田区のまちの特徴、それぞれの違いについて理解している。 ・地図記号を覚えるのに時間のかかる児童	・学んだことを生かして、町や生活の様子をより主体的に観察、考えるようにする。 ・学習したことを教科書と見比べ、社会科用

	もいることが課題である。	語を用いてまとめたり、発表したりし、正確な知識の定着を図る。
--	--------------	--------------------------------

4年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
社会的事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 学習効果測定の結果では、目標値を上回っている。 工場見学や調べ学習に意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習として、清掃工場・消防署の見学、ゲストティーチャーとして水道局の方を迎え、体験する学習を多く取り入れた。2学期も体験活動を多く取り入れていく。
社会的な思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 学習効果測定の結果では、目標値を上回っている。 他の学習と関連させて考えることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動を多く取り入れ、実体験できるようにする。 既習学習や生活体験と関連させて考えられるように工夫する。
観察・資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> 学習効果測定の結果では、目標値を上回っている。 調べたことを工夫してまとめることができるが、資料から考察することには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る学習活動を充実させ、資料を使ってまとめる学習を取り入れる。
社会的事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 学習効果測定の結果では、目標値をやや下回っている。 内容別に見ると、「昔のくらしの様子」の項目の定着が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識の復習を重ねる。 実体験の難しい学習内容は、情報機器を活用して、イメージをもたせられるようにする。

5年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
社会的事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。 社会的事象に対する関心が高く、意欲的に学習に取り組んでいる。しかし、文章で考察する問題や説明する問題に対しては、無答が多く苦手意識が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入や学習問題作成を工夫し、興味・関心を高める。 問題解決的な学習を取り入れ、児童が考察したり、説明し合ったりする時間を確保する。 校外学習を積極的に行う。事前学習として、目的や意味を考えたり、予想したりする活動を行い、観点を絞って学習が行えるようにする。
社会的な思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。 資料から理由を考察する問題、変化を複 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で資料を読み取る活動を取り入れる。その際、着目点についても指導する。 調べ学習や新聞にまとめる学習で、資料や

	<p>数の資料から判断する問題、複数の資料を関連付けて把握する問題、2 つ以上の知識を結び付けて活用する問題に課題がある。</p>	<p>これまでの知識を活用し、考察したり、説明したりする活動を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめを工夫する。
<p>観察・資料活用の技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。 ・1 つの資料から読み取って考える力は付いてきているが、複数の資料や知識と結び付けながら、活用し、考察する問題に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書のグラフと見比べ、読み取る力を付けるなど、実際の活動と結び付けられると定着が有効と考えられる。 ・教科書や資料集にある図やグラフなどを活用して、まとめる活動を取り入れていく。 ・地図帳を活用する。
<p>社会的事象への知識・理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。 ・都道府県の名称や位置についてよく理解できていた。しかし、5年生では世界の中の国土をはじめとしてこれまでよりも範囲が広がり、児童にとって身近でなく、考えづらくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き慣れない社会的事象については、定着が図られるように、新聞やテレビのニュースを活用し、身近なものとして考えることができるようにする。 ・フラッシュカードやカルタなど楽しく、知識の定着ができる教材を用いる。 ・学習したことをキーワードになる社会科用語を用いてまとめたり、発表したりし、正確な知識の定着を図る。

6年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
<p>社会的事象への関心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲・態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値、区の平均を下回っている。問題では、北方領土や太平洋ベルト、地産地消や工業・農業の問題の正答率が低く、普段から、社会的な話題への興味をもつことが課題である。 ・6年生の社会の内容が歴史になり、多くの児童が興味をもって学習できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から、新聞やテレビのニュースで気になった話題をスピーチしている。社会的事象への関心もてるよう引き続き行う。また、テーマについても内容を考えていく。 ・歴史新聞は、児童が積極的に取り組んでいる。資料集や本、インターネットなどから資料を選択し、テーマに合った新聞作りができるようにする。
<p>社会的な思考・判断・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値を上回っているが区の平均は下回っている。特に、資料から理由を考察する問題、輸入品の変化を複数の資料から判断する問題、米の生産量の変化を複数の資料を関連付けて把握する問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生の歴史の学習には、興味・関心をもって取り組むことができているので、いくつかの資料から社会的な思考を導くような活動を取り入れる。 ・課題に合わせて、要点をまとめたり自分の考えを書かせ話し合わせたりする学習を

		取り入れる。
観察・資料活用の技能	・学習効果測定の結果は、目標値を上回っているが区の平均は下回っている。「観察・資料活用の技能」の問題の正答率は大体目標値にある。一つの資料から読み取る問題は目標値を上回っている。	・資料を基に思考を深めたり、推測したりする活動を取り入れる。 ・教科書や資料集の隅々にある図やグラフなどを活用して、まとめる活動を取り入れていく。
社会的事象への知識・理解	・学習効果測定の結果は、目標値に達していない。北方領土や自動車の製作工程など、社会的な知識が定着していないものが多い。国土の地形の概要やたい肥についてなどの問題は目標値を超えており、内容によって定着にばらつきがあることが課題である。	・興味のあるものとそうでないものでは、定着にばらつきがある。単元の評価により、定着が低い内容の復習に力を入れる。 ・特に学年のまとめでは、学年全体を通した復習、5年生の学習内容の復習にも取り組む。まとめの段階で、重要用語集を作らせるなどの活動を取り入れる。

<算数> 改善のポイント

東京ベーシックドリルや大田区ステップアップ学習プリント等を活用し、基礎的な計算の量をこなし、学力の確実な定着につなげる。

(1) 学習効果測定の実績

算数科の正答率は、どの学年の標準スコアも50を超えている。教科としての平均正答率はどの学年も目標値を上回っており、区の平均と近い値になっている。観点別正答率では、全学年どの観点でも6, 7ポイント目標値を上回っている。目標値を13ポイントも上回っている学年もある。

(2) 課題

技能の観点で、平均値と1ポイント差が見られるなど、技能の観点に課題が見られる。領域別に見ると、どの領域も目標値を上回っているが、「量と測定」「数と計算」では、どの学年も区平均に達していない。問題情報を見ても、それらの領域の問題の正答率はやはり高くない。計算などの技能は定着が見られるが、量感が伴っていない。

(3) 改善策

児童の実態として、量を感覚的に把握する力の弱さ、数概念の未熟さがあることが多い。数としての小数や分数は分かっているが、実際にどれほどの大きさなのかを理解していない。計算練習などでは身に付けることができないので、これまでに学習してきた量の単位を総合的に捉え直し、学習の中で、図と数とを結び付けながら指導していく必要がある。

また、低学年からの基礎・基本の定着を図るために、東京ベーシックドリルや大田区ステップアップ学習プリント等を活用する。基礎的な計算の量をこなすことでも基礎・基本の確実な定着につなげていく。

観点	現状	改善に向けての方策
算数への 関心・意欲・ 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・数字を書くことや、数に触れることを楽しんで ・日常生活に関連した内容に意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業以外の場面で、数に親しむ機会を多く作る。 ・導入や展開を工夫し、より意欲的に算数に取り組めるようにしていく。
数学的な 考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の仕方を考え、操作できる児童が増えてきたが、言葉を用いて説明したり工夫したりできる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「算数ブロック」「10のまとまり」「さくらんぼ」など解決するための手立てを多く持てるようにする。
数量や図形 についての 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し取り組むことで、計算の技能は定着しつつあるが、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックでの操作活動を通して、基礎的・基本的な計算の方法の理解を定着させる。
数量や図形 についての 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を理解できず、足し算と引き算の区別がつかない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題では、場面を具体化し、自分で話をしながら問題の流れを理解できるようにする。 ・ステップ学習や東京ベーシックドリルの練習シートを活用し、反復練習を多くする。

2年

観点	現状	改善に向けての方策
算数への 関心・意欲・ 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組む児童が多い。中には苦手意識をもった児童もいるが、諦めずに粘り強く取り組んでいる様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別に、児童の実態に応じた導入や展開を工夫する。具体物を用いたり、課題を把握させたりすることにより、見通しをもたせて学習させる。 ・意欲を損なわないよう、学習に対する姿勢を大いに認め褒める。
数学的な 考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートに自分の考えを書けるが、友達への伝え方がノートを見せるだけといった言葉で説明できる児童は少ない。また、考え方を文章問題で応用することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話形を示したり、期間指導で担任が一度聞き自信をもたせる声かけをしたりと補助を行う。 ・引き続き、図や言葉、式を用いて自らの考えを発表する場を積極的に設ける。また、友達の考えを再度説明する機会を設けることにより、不安感を取り除き、少しずつ説明できるようにする。
数量や図形 についての 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し上がり・繰り返し下がり計算は、ほとんどの児童が習得している。 ・ものさしを使って、直線を引くことに個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数問の復習を定期的に行い、習熟を図っていく。そのために家庭とも連携し、家庭学習でも復習に取り組んでもらう。 ・ものさしを用いて直線を引き、長さを測る活動を取り入れる。

数量や図形についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がり・繰り下がりの計算はほとんどの児童が理解している。 ・水の体積（dL、L、mL）や長さ（cm、mm）での単位換算が苦手な児童が比較的多く見られる。 ・時刻は読み取れるものの、時間を考えることが苦手な児童が比較的多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・復習を繰り返し行い定着させる。 ・時計や長さなど、日常生活でも用いるものは意図的に扱うことで、定着を図る。また、家庭学習でも復習に取り組んでもらう。
-----------------	--	--

3年

観点	現状	改善に向けての方策
算数への関心・意欲態度	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に考えたり、課題に取り組んだりする児童が多い。 ・自分の考えをノートに図・式・言葉で表したり、説明したりすることができる児童は多い。 ・自分の考えに自信をもてず、消極的になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度の程度を把握し、その集団に適した教材を効果的に用いて、意欲をもって取り組むことができるようにする。 ・児童が自分の考えを引き出せるように、課題提示の仕方や発問の仕方を工夫する。 ・授業の導入に既習事項を全体で振り返る時間を設け、課題解決のために、既習事項をどのように生かすかを考えさせ、全体で共有させる。
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算では、かけ算のきまりを、アレイ図や九九、式を使って、求めたり、説明したりすることができる児童が多い。 ・あまりのあるわり算では、文章問題を理解できずに、誤答を求めてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりのあるわり算の文章問題では、おはじきなどの具体物を操作したり、図をかいたりすることを通して、問題場面に応じた商や余りの処理の仕方を考えさせる。
数量や図形についての技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算は、ほぼ定着しているが、中には、九九が定着していない児童もいる。 ・量と測定では、時刻と時間の、ある時刻から一定時刻後の時刻を求める問題に苦手意識をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算九九の暗唱や計算を家庭でもくり返し練習させ、さらに確実な物にする。 ・自分の生活と関連付けたり、活動を通して量感がもてるようにしたりする。
数量や図形についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な内容の学習が定着できている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習も含め、繰り返し復習できるようにし、学習の定着を図る。

4年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
----	---------	-----------

算数への 関心・意欲 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果から、正答率は目標値を上回り、学習が定着していると分析する。 ・数と計算、図形の学習内容は理解し、定着している児童は多い。 ・意欲的に問題に取り組む児童は多い。 ・ノートに、自分の考えを言葉、式、図に表せるようになってきたが、自力解決に至ることは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の考えを引き出せるように、課題提示の仕方や発問の仕方を工夫する。 ・授業の導入に既習事項を全体で振り返る時間を設け、課題解決のために、既習事項をどのように生かすかを考えさせ、全体で共有させる。 ・引き続き、ノートに自分の考えを言葉・式・図で表す活動を取り入れ、それらをペア・全体で発表する場を設ける。
数学的な 考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算では、立式から正しい答えは求められるが、文章問題を解くための、正しい除法の立式が苦手な児童が多い。 ・倍の文章問題を解くための、正しい乗法の式を選べない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を読み取らせるために、立式をする上で大事な情報に線を引かせることや、絵や図に表させたり、具体物を操作させたり、数をイメージしやすくする活動を取り入れる。
数量や図形 の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算では、全体的に定着してきているものの、4けたの計算では、ミスをする傾向がある。 ・量と測定では、ある時刻から一定時刻後の時刻を求めることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4けたの計算に慣れさせ、普段から計算した後に、見直しをする習慣を身に付けさせる。 ・計算をする前に、答えの見当をつけさせる。 ・時計や長さなど、日常生活でも用いるものは意図的に扱うことで、定着を図る。
数量や図形 についての 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な内容の学習は定着している。 ・身近にあるものの重さを推察することや、棒グラフの有用性や特徴を理解することを苦手とする児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを見て気付いたことや、良いことなどを発表すること、話し合う活動を通して、様々な視点で棒グラフについて考えさせ、有用性や特徴に気付かせる。

5年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
算数への 関心・意欲 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果から、正答率は目標値を上回り、学習が定着していると分析する。 ・計算問題を解く速さに個人差はあるものの、最後まで粘り強く取り組む。 ・課題解決のために、既習事項をうまく活用できる児童は少ない。自分の考えに自信をもって、説明することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入に、既習事項を振り返る時間を設け、課題解決のために既習事項をどのように生かすかを考えさせる。 ・引き続き、図・式・言葉を使って、課題解決のための考え方をノートに表す時間を設ける。 ・自分の言葉で説明する練習をペアで行う活動を取り入れる。それを全体発表させる。 ・全体発表した考え方の共通点を、全体で考える時間を設ける。
数学的な 考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算の、文章問題は比較的正答率が高い。 ・量と測定は総合的に苦手傾向にある。 ・量と測定の中でも、角の大きさの見当を 	<ul style="list-style-type: none"> ・角の大きさの量感をもたせるために、具体物を用いて、実際に操作し、目で確かめる活動を取り入れる。 ・角の大きさを測る前にどのくらいの大きさ

	つける問題の正答率が、目標値を下回り、課題とされる。	なのかの見当をつけさせる。
数量や図形の技能	<ul style="list-style-type: none"> 数と計算では、あまりがある計算や整数の計算は定着しているが、積や商の小数点を打つ位置を間違える児童が多い。 図形では、既習の平面図形の性質や特徴は理解しているが、与えられた図形を作図する問題の正答率は、低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 小数×整数、小数÷整数の計算に慣れさせる。その際、積や商の小数点の位置がいくつ動くのか理由を考えさせながら、確認させる。 指定された角や辺を、コンパスや分度器を用いて作図するには、どのように操作すればよいかを考えさせる。それを発表し、全体で共有させる。
数量や図形についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 数量関係では、折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題、二次元表を利用した問題の正答率が、目標値を下回り、課題とされる。 量と測定では、身近にあるものの面積を推察することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフの横軸、縦軸に表示されているもの、縦軸の一目盛りの大きさなど、折れ線グラフの仕組みを考えさせる。 折れ線グラフでの読み取りの既習を生かし、二次元表から資料の特徴を読み取らせる。さらに二次元表から分かることを明確にし、読み取らせたものを考えさせる。 面積の量感をもたせるために、身の回りにある面積を実際に予想させ、測定させる活動を取り入れる。

6年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
算数への関心・意欲態度	<ul style="list-style-type: none"> 学習効果測定の結果から、正答率は目標値を上回り、学習が定着していると分析する。 数量関係に対する関心が低い。特に、割合・百分率を、生活と結び付けて考えることに課題がある。 図形は、関心・意欲をもって課題に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題とされる百分率では、日常生活で百分率を利用する場面を想起し、課題に対する関心・意欲を高める。 数直線や簡単な整数への置き換えなど、児童が自分なりの考えをもてるように、課題提示の仕方、発問の仕方を工夫する。 学習後の振り返りから、習熟が目標値に達していない単元については、繰り返し復習を行う。
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> 量と測定では、測定値の個数が1個増えたときの新たな平均を求める問題が苦手傾向にある。それ以外の問題の正答率は比較的高い。 数量関係では、帯グラフの割合から人数を求める問題が苦手傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均の学習では、平均の意味や数量の関係を数直線などに表現して考えさせる。 帯グラフの読み取りを各自で行わせ、困っている児童には小集団指導を行う。 割合が同じでも基準量が異なれば比較量が異なること、基準量が同じであれば、割合だけで比べられること気付かせる。

数量や図形の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算の内容は定着している。 ・図形では、正八角形の問題以外の正答率は比較的高い。 ・数量関係では、百分率の理解が乏しく、式の意味が分かっていない児童や、百分率を利用して代金を求める問題を苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正八角形を扱う際に、正方形の折り紙に円をかき、それを用いて正八角形づくりに取り組ませる。正多角形と円を相互に関連付けながら定義や性質の理解を深めさせる。 ・百分率の問題では、数直線を活用させ、立式させる。その際、既習である割合を求める式と比較量を求める式とを関連付ける活動を取り入れる。
数量や図形についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算では、倍数の問題、図形では、半径から円周を求める問題、三角柱の展開図をかく問題が苦手傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倍の問題では、十進位取り記数法の考えと関連付けさせる。 ・展開図を考える問題では、実際に箱作りをして展開してみるという算数的活動を取り入れることにより理解を深める。

<理科> 改善のポイント H28 担当 伴

児童が興味を持てる課題を設定し、実験、観察を通して自然事象について考える活動を大事にする。また、理科用語の確実な定着を図る。

(1) 学習効果測定の実施

「自然事象への関心・意欲・態度」の正答率は、目標率を超えている学年が多い。しかし、「科学的な思考・表現」や「自然事象についての知識・理解」については課題がある。

(2) 課題

観察や実験には意欲的に取り組むが、観察や実験の結果から考察することが苦手で、論理的に考えようとする意欲が低い児童が見受けられる。また、説明が感覚的で大まかになっている。理科用語を用いて論理的な説明になっていない場合が多い。下回っているのは、「ホウセンカの花のあと」「太陽と地面のようす」(4年)、「カマキリの1年間のようす」「物の体積と温度」(5年)、「人のたんじょう」「物のとけ方」(6年)などである。身近にあまり見られない物や実験の結果から考察するものなどに課題があるようである。

(3) 改善策

観察や実験の結果からなぜそうなったのか、既習の学習内容や様々な情報を総合して、その要因や条件を見出しながら科学的・論理的に思考する授業展開を取り入れていく。また、観察や実験の結果と教科書を見比べながら、理科用語の正確な習得を進めていく。

3年

観点	現状	改善に向けての方策
自然事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が植物の観察や昆虫の飼育などに興味・関心をもって取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味・関心を示すような観察や実験を取り入れ、体験活動を増やす。 ・映像教材やデジタル教材を効果的に取り入れる。
科学的な思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が生活経験から思考に結び付けることができている。予想をたてることもできるようになってきている。 ・結果から分かったことを考えることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の疑問点から課題を提示し、調べたいという意欲をもたせる。 ・「課題」→「予想」→「観察・実験」→「考察」する時間を確保し、問題解決学習を進めていく。 ・写真や図、グラフなどを共有して、思考を焦点化していく。
観察・実験の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・観察では、前回との比較や、観察するポイントを明確にして記録することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較しながら観察するという視点を明確にし、理科用語を使って自分の言葉でまとめることができるようにする。 ・実験や観察に使う器具の正しい使い方を一つ一つ確認し、くり返し使用し定着させる。
自然事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を通して知識が身に付いている。 ・理科用語を正確に身に付けることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察したことや実験の結果から分かることを考えることで、知識を定着させる。 ・観察や実験結果を教科書と見比べ、理科用語を正しく理解し、定着を確実にする。

4年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
自然事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果では、目標値を上回っている。 ・特に、植物の生長の様子を観察したり、実験にとっても意欲的に取り組んだりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が疑問に思ったことから課題を提示し、調べたいという意欲をもたせる。 ・児童が興味・関心を示すような観察や実験を取り入れ、体験活動を増やす。
科学的な思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果では、目標値をやや下回っている。 ・実験観察の結果を予想し、実験後に結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想し、自分なりの考えをしっかりとせてから実験や観察を行う。 ・実際に実体験の出来ない内容は、映像教材

	をまとめることはできるようになった。 実験の結果から「分かったこと」を考察することにはまだ課題がある。	を活用する。
観察・実験の 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果では、目標値を大幅に上回っている。 ・観察して気付いたことをまとめることが上手になってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや分かったことをまとめるポイントを指導する。 ・理科用語を使えるように意識させる。
自然事象に ついての 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果では、目標値をやや下回っている。単元別に見ると「昆虫の育ち方」や「太陽と地面の様子」、「じしやくについての性質」についての内容が目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各單元ごとの基本的な知識事項をしっかり押さえて記録させる。 ・理科用語を繰り返し復習する。

5年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
自然事象への 関心・意欲 ・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている ・理科への関心・意欲・態度は高い。特に、実験や観察などの学習への関心は高く、定着も高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然事象への興味を更にもたせるために、身近な自然事象の実験や観察を多く取り入れ、実際に体験する活動を多くする。
科学的な 思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。 ・実験や観察の結果から、科学的に考えることは難しく、「電気のはたらき」、「ものの体積と温度」、「自然の中の水」の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察から科学的思考を導き出せるように、各自で考察を行い、全体で科学的な理解を深められるような授業を展開する。 ・学習後の復習を行う。
観察・実験の 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。 ・観察や実験は、関心を持って学習することができるが、実験器具についての知識、理解や使い方に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味をもって取り組めるような実験・観察を行う。 ・実験や観察の視点を提示し、実験や観察から何を学習するかを考えさせる。 ・実験器具の使い方を細かく指導する。
自然事象に ついての 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。 ・理科用語の定着は課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に前時の復習を行い、繰り返し学習することで知識の定着を図る。 ・プリントや振り返ってみようで復習する時間を確保する。

6年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
自然事象への関心・意欲 ・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値、区の平均を下回っている。全体的に数値として関心が高くない。しかし、特に実験に対しての意欲はあり、積極的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の学習を引き続き行い、児童の関心を生かせる授業を展開する。 ・実感を大切にする授業を展開し、児童の「楽しい」、「なるほど」、「もっと知りたい」という意欲がもてる体験を多く取り入れる。
科学的な思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値、区の平均を下回っている。実験結果から指摘、推測、説明する問題の正答率が低い。 ・普段の学習では、実験の結果から分かることを考察することが苦手な様子があったが、少しずつできてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心を大切にし、実験や観察から分かることを検討することを大切にする。 ・実験や観察から分かることでは、事実だけではなく、結果の違いや結果から推測することを丁寧に扱う。 ・実験の結果だけでなく、既習の事項や、日常生活と結び付けて考えることに取り組む。
観察・実験の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値は上回っているが、区の平均は下回っている。「観察・実験の技能」の問題は、どの問題も正答率が目標値あたりにある。しかし、顕微鏡の倍率から、実際の大きさを判断する問題では、目標値を6ポイントも下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に、実験や観察に取り組んでいるからこそ、技能が身に付いていると考えられる。引き続き、興味のある実験や観察を通して、技能が身に付くようにする。 ・また、実際に体験できない単元については、ビデオ教材などを利用する。
自然事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定の結果は、目標値、区の平均を下回っている。人や魚のたんじょうについての知識では、目標値を11から14ポイントも超えている問題もあり、よく理解できている。しかし、同じ単元でも、受精から38週で産まれることの問題は17ポイントも目標値に達していない。他の単元など、内容によって定着にばらつきがあることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りにより、理解が達していないものは復習に取り組む。 ・単元のまとめで、条件や結果、考察など重要な理科学用語を押さえながらまとめ板書する。 ・理科学用語の定着を図るために、単元のまとめ学習なども必要に応じて取り入れる。

<生活科> 改善のポイント

具体的な活動を通して、興味・関心を引き出し、自分自身や自分の周りについて気付いたことを表現する機会を多く設定する。

(1) 現状

植物や生き物を育てることに喜びを感じ意欲をもって取り組むことのできる児童は多いが、観察に対する関心や気付き、詳しく表現することに個人差が見られる。

(2) 課題

観察や町探検などで、気付いたことを詳しく表現することに課題が見られる。

(3) 改善策

色・形・大きさ・手触り・においなど、観察の視点を示す。自らが気付いたことを、たとえば表したり、数値や形などで具体的に表したりした表現方法を示し、全体で共有する機会を設ける。

1年

	現状	改善に向けての方策
生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおの生長を楽しみに毎朝の水やりを心を込めて行っている。 ・2年生との交流では、話をよく聞き、関わり方を学びながら楽しむことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つるを使ったリースを作る、新1年生に種をプレゼントするなど活動を工夫し、次に向けて意欲をもたせる。
活動や体験についての思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおの生長過程を、五感を使って詳しく表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「大きさ」「形」「色」「手触り」など具体的な観察の視点を与える。
身近な環境や自分についての気付き	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人との関わりに気付き、大切にすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年との交流の中で楽しかった経験を振り返る機会を設けて、新1年生を迎えるときに生かせるようにする。

2年

	現状	改善に向けての方策
--	----	-----------

生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・季節探しや植物の観察など、意欲的に取り組む児童が多い。反面、関心を示さない児童も見られる。 ・学校探検などの1年生との学習では、準備から当日まで意欲的に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの野菜を全員で栽培する活動を通して責任感と成長に対する喜びの共感できる機会を設ける。 ・それぞれのめあてを明確にし、それぞれが達成感を味わえる活動を取り入れていく。
活動や体験についての思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニトマトの気付いたことを観察カードに表す際に、色・形・大きさ・手触り・においなど、観点を示したことにより、それぞれの観点について注目することができた。しかし、詳しく表現できない児童も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが気付いたことを、たとえで表したり、数値や形などで具体的に表したりした表現方法を示し、全体で共有することにより、表現することが苦手な児童の手だてとする。また、発表する機会を設けることで、より目的意識をもたせて活動させる。
身近な環境や自分についての気付き	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物を育てることによって、世話をすることの大切さに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校にいる動物・植物について、図書館を利用して調べることを通し、育つ様子や育て方などを知る。

<音楽>改善のポイント

教科の特性を生かし、多様な課題や学習形態を取り入れ、自主的に表現方法を工夫する力を育てる。

(1) 現状

多くの児童が高い関心・意欲をもって取り組み、苦手なことにも進んで取り組む姿勢が見られる。歌唱・器楽・鑑賞・音楽づくりをバランスよく取り入れ、ねらいや課題を明確にし、児童は達成感や感動を味わいながら音楽活動に取り組んでいる。

(2) 課題

音楽を表現するための基礎的な技術に個人差がある。また、曲想のよさや音楽のしぐみに気付き、表現方法を工夫することが課題である。

(3) 改善策

ひとりひとりのつまずきや課題に対して、具体的な声かけや解決策を提示し、個別指導を丁寧に行う。また、意見交換の場や少人数活動を取り入れ、ひとりひとりが主体的に活動できる場面を設定する。様々な音楽や表現に触れさせ、よりよい表現方法を工夫する楽しさを味わえるようにする。

1年

現状	改善に向けての方策
----	-----------

音楽への関心・意欲・態度	・楽しく歌い、リズム遊びをすることができた。	・様々な歌や楽曲にふれ、音楽の楽しさを感じられるようにする。
音楽表現の創意工夫	・楽曲の気分に合わせて歌える児童が多いが、元気のいい曲、大きく歌うところで怒鳴ってしまう児童がいる。	・歌詞の表す気分を感じ取ったり場面を想像したりして、声や音色に気を付けた歌い方の工夫ができるようにする。
音楽表現の技能	・鍵盤ハーモニカの基本的な演奏法は、段階的に少しずつ身に付いてきており、ド～ソまでの簡単な曲が吹けるようになってきたが、個人差がある。	・鍵盤ハーモニカでは、個人的な練習の時間を設け、児童の実態に応じて個人指導をしていく。 ・階名唱は継続的に行う。
鑑賞の能力	・互いの演奏を聴き合い、よかったところを伝え合うことができている。	・音楽を聴いて感じたことを身体で表現したり、絵に表したりなど、様々な経験を積み重ねていく。

2年

	現状	改善に向けての方策
音楽への関心・意欲・態度	・音楽活動には多くの児童が意欲的に取り組んでいる。 ・音の高さの違いに気付き、声の出し方や発音を工夫することが課題である。	・達成感や感動を味わわせるように、個別支援を細やかに行う。 ・階名唱や模唱を取り入れたり、旋律遊びで音の高さの違いに気付かせる。
音楽表現の創意工夫	・元気に大きな声で歌う児童が多く、新しい曲に対する高い関心をもっている。 ・曲想に合った柔らかい発声が課題である。	・様々な曲想の歌を提示し、曲に合わせて自然と柔らかい力の抜いた発声ができるように指導する。
音楽表現の技能	・鍵盤ハーモニカでは難しい課題にも諦めずに取り組む姿勢がみられ、特に器楽合奏には意欲的に取り組む児童が多い。 ・技術の個人差が課題である。	・個別指導を丁寧に行い、児童に合わせたスモールステップで取り組ませる。また、児童同士での教え合いを取り入れる。
鑑賞の能力	・音に合わせた身体表現や手遊びには、リズムにのって意欲的に取り組んでいる。 ・周りの演奏や歌声に合わせることを課題である。	・ひとりずつの演奏リレーや、グループごとに聞き合う活動を取り入れ、周りの演奏や歌声のよさに気付くことができるようにする。

3年

	現状	改善に向けての方策
--	----	-----------

音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動には多くの児童が意欲的に取り組んでいる。歌唱・器楽ともに向上心が高く、自主的に練習することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、器楽、鑑賞の活動をバランスよく取り入れ、友達と合わせる喜びや達成感を味わわせる。
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 曲想に合った歌声を意識し、高い音も響きのある声で歌えている。 歌詞を大切にしていることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢を定着できるように、常時声をかける。また、歌詞を朗読してから歌うなど、歌詞の大切さに気付かせる。
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーの導入では、正しい指使いは概ね定着しているが、適当な息の強さやタンギングが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> テストでは1人ずつ演奏させ、ひとりひとりに合った課題を指導する。また、友達同士の教え合いの活動を取り入れ、よいところを真似させる。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> 曲想や旋律のおもしろさに気付き、身体で表現することに意欲的に取り組んでいる。 音の重なりを感じて演奏することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 輪唱や簡単なアンサンブルを導入として、音が重なった響きのよさを感じさせるようにする。

4年

	現状	改善に向けての方策
音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動には多くの児童が意欲的に取り組んでいる。 即興的なリズムや旋律づくりで、音楽の仕組みを生かして表現することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、器楽、鑑賞、音楽作りの活動をバランスよく取り入れ、音楽の特徴や仕組みに気付かせるようにする。
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 曲想に合った歌声で、高い声ものびのびと発声できている。 二部合唱において、声の重なりを感じて歌うことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 輪唱や簡単な二部合唱の教材に取り組み、部分的に取り出すなどして、ハーモニーを感じられる活動を取り入れる。
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーの正確な指使いやタンギングも定着しており、特に器楽合奏への意欲が高い。読譜についての個人差が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な楽器に触れさせ、器楽の楽しさを味わわせながら、個人支援を丁寧に行う。また、階名読みやリズム教材を取り入れ、譜読みに触れる機会を増やす。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> 旋律の特徴や、曲想のおもしろさに気付くことはできるが、友達によさが伝わるように表現することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の仕組みを表すワードを提示し、歌唱・器楽活動でも言語活動を充実させる。

5年

	現状	改善に向けての方策
音楽への関心・意欲・態度	・音楽活動には多くの児童が熱心に取り組んでいる。歌唱・器楽ともに向上心が高く、自主的に練習することができている。	・歌唱、器楽、鑑賞、音楽作りの活動をバランスよく取り入れ、友達と合わせる喜びや達成感、感動を味わえるようにする。
音楽表現の創意工夫	・大きな声でのびのびと歌う児童が多い。頭声発声を意識させ、歌詞のよさを意識しながら歌えるようにすることが課題である。	・声の響きの違いを実感できるよう、発声練習を定期的に取り入れる。歌詞を朗読したり、感じたことを伝え合ったりする活動を取り入れる。
音楽表現の技能	・器楽の技術も定着し、苦手なところも自主的に練習できている。 ・強弱やフレーズを意識した音楽表現ができるようにすることが課題である。	・楽器の特徴や音量のバランス、曲のまとまりを考えて演奏させる。視覚的にも意識できるように図形楽譜などを取り入れる。
鑑賞の能力	・音楽に対する感受性が豊かで、曲のよさや特徴をつかむことができている。 ・感じたことを言葉にして伝えることが課題である。	・音楽のしくみや、音楽を作り出すワードを指導し、参考にさせる。友達の演奏に対しても良さやアドバイスを伝え合う活動を取り入れる。

6年

	現状	改善に向けての方策
音楽への関心・意欲・態度	・音楽活動には多くの児童が熱心に取り組んでいる。歌唱・器楽ともに向上心が高く、自主的に練習することができている。	・歌唱、器楽、鑑賞、音楽作りの活動をバランスよく取り入れ、友達と合わせる喜びや達成感、感動を味わえるようにする。
音楽表現の創意工夫	・歌詞のよさや旋律の美しさを感じながら、のびのびとした発声で歌うことができる。 ・歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫することに課題がある。	・正しい呼吸法や発声法を繰り返し指導し、表現方法の幅を広げられるようにする。歌詞を朗読したり、意見交換を取り入れながら、思いや意図をもって歌えるようにする。
音楽表現の技能	・器楽の技術が定着し、多くの児童は苦手なところも自主的に練習できている。 ・強弱や旋律の役割を意識した音楽表現ができるようにすることが課題である。	・楽器の特徴や音量のバランス、曲のまとまりを考えて演奏させる。強弱を生かして演奏したおもしろさやよさを感じられるようにする。
鑑賞の能力	・多くの児童は曲の音程やリズムを、正しく聴き取ることができている。	・音楽の仕組みや、音楽を作り出すワードを指導し、参考にさせる。様々な演奏形態の

	・曲の仕組みや音楽をつくり出す要素に気付けて鑑賞することが課題である。	楽曲や、世界の音楽に触れさせ、関心をもって鑑賞できるように工夫する。
--	-------------------------------------	------------------------------------

<図工>改善のポイント

課題に対するめあてを明確にし、児童一人一人が達成感を味わえる活動を取り入れていく。そのために、題材や材料を工夫し、それぞれが意欲をもって取り組むことができるようにする。

(1) 現状

・多くの児童が楽しみながら意欲的に活動しており、友達の活動や作品に関心をもって鑑賞することもできている。しかし、題材によっては苦手意識をもってしまって、なかなか課題に取り組めない児童や、人間関係を意識しすぎて当たり障りのない表現を好む児童もいる。

(2) 課題

- ・材料の特徴を生かしたり、自分なりの構想を練ったりすることに苦手意識をもっている児童に対しての指導援助が課題である。
- ・準備や後片付けを進んで行う姿勢を身に付けさせたい。

(3) 改善策

- ・できあがりの見本を見せたり、表現方法を提示したりして自由な発想を促す。また、発想が広がるような材料を準備する。
- ・役割分担をし、責任をもって準備や後片付けに取り組ませる。

1年

	現状	改善に向けての方策
造形への関心・意欲・態度	・クレヨンを使った絵を描く経験を多く積み重ねてきたので、自分の描きたいものを表現することや丁寧に色をぬることを心がけるようになっている。	・引き続き、楽しい図工指導になるように造形遊びも含めて様々な経験をさせる。
発想や構想の能力	・自分なりの思いをもって作品作りに取り組んでいる。 ・見本を忠実に再現しようとしたり、やることの見通しがもてなかったりすると自由に発想することが難しく、まだまだ作品が似通ってしまう傾向があることが課題である。	・出来上がりを見本は、毎回見せるが自由な発想を大切にするため、長く掲示しないようにする。 ・対話を通して、それぞれの「作りたいもの、描きたいもの」ができるようにアドバイスする。
創造的な技能	・絵の具の筆使いやはさみ等の道具の操作は、ぎこちないながらも楽しく取り組ん	・作業は比較的是やいが、「線通りにまっすぐ切る」、「はみ出さないように塗る」など、

	<p>でいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形をよく見て細かい部分まで工夫して描くことが課題である。 	<p>丁寧に作品作りができるように道具の使い方などのポイントを具体的に指導する。</p>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品のよさを自然に認め合えるよさがあり、多くの児童が、手法を柔軟に取り入れようとする意欲をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの作品もよさを見付けて、児童の自信につなげるとともに鑑賞の視点が育つようにする。

2年

	現状	改善に向けての方策
造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら想像したことを絵に表すことやものの変化を感じ取り物づくりを楽しむことができる。 ・自分のイメージ通りに作品づくりが進まない途中であきらめてしまう児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの表現方法に自信をもたせるよう共感的指導を心がける。 ・児童が作品づくりに集中できるよう、題材や導入を工夫する。
発想や構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・発想豊かに作品づくりに取り組んだり、物語を考えながら絵に表したりすることができる。 ・経験値が少なく発想が思い浮かばない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な発想を促すため、教師見本や表現方法を提示したり発想が広がるような材料を用意したりする。 ・様々な発想や構想の仕方を紹介し合う。
創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な材料の使い方を工夫できる児童がいる。 ・それぞれの材料のよさを生かし切れない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の特性を生かした使い方を指導するとともに、繰り返し使い体得させる。 ・身近にある材料にかかわることの楽しさを味わわせる。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品について、そのよさを認め合う姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの作品をじっくり見合いよさを見付けられるよう時間を設定する。

3年

	現状	改善に向けての方策
造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・題材や材料に興味をもち、意欲的に取り組む児童が多く見られる。 ・しかし、指示の理解が難しかったり、自分の思いに技能が追いつかなかったりする児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料や用具の体験を通して、基本的な技能を身に付けさせる。 ・なかなか課題に取り組むことができない児童に対しては、個別支援をする。
発想や構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマや材料、使用する道具などから思いついたことを表そうと意欲的に取り 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料や表現方法を体験しながら、次第に自分のイメージをもってつくりたいも

	<p>組むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> しかし、いろいろ試しながらじっくり材料に親しんだり、表し方を考えたりする力が不足している。 	<p>のや描きたいものを考える力を身に付けさせる指導を工夫する。</p>
創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> 自分が表したいことに合わせて画材や道具を選び表現することができる。 のこぎりや金づちなど新しい技能を安全に気を付けて主体的に習得しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いに合わせて材料や用具を扱う楽しさを味わうとともに経験を深める指導を工夫する。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品や他学年の作品に興味をもち、色や形のよさやおもしろさなどを感じ取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と作品を見合い、見付けたよさや感じたことを鑑賞カードを使って伝え合う。

4年

	現状	改善に向けての方策
造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 題材や材料に興味をもち、意欲的に取り組むことができる。 発想が深まらず、課題にじっくり取り組めない児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい技能に親しんだり、作品に自分らしさを取り入れたりしながら達成感をもたせる指導の工夫をする。
発想や構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> 材料を組み合わせてできる形から、自分らしい表現を思いついて制作に取り組む児童が多い。 安易に終着を決めてしまいがちの児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> じっくり取り組めるよう言葉かけをしたり、様々な道具の準備をしたりして環境的な支援をする。 材料に触れたり、働きかけたりする時間を十分に設け、材料から発想を広げさせるようにする。
創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> 題材の特徴を生かして、用具や材料の使い方を工夫して表現できる。 自分が表現したい思いに合わせた用具や材料を選択することがまだ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 発想や構想に合わせた表現方法を共に探りながら、児童自らの力で選択できるようにする。 新たな表現方法や道具を扱うときは、正しい扱い方を知り、試したり練習したりする時間を十分設ける。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> 友人の作品や制作活動に興味をもち、作品のよさや工夫した点などを感じたり、互いに認め合ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表現と友人の表現の違いを鑑賞カードで伝え合ったり、自分の活動を振り返ったりする機会をより多く設ける。

5年

	現状	改善に向けての方策
造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい表現方法や材料に対して興味をもち、意欲的に取り組む児童が多く見られる。 ・自分らしい思いをもって表現したいという創作意欲をもって取り組むことが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時にその時間の目標を明確にし、活動を支援する。 ・個に合わせた支援をし、表現する喜びが感じられるように意欲付けする。
発想や構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい表現方法や材料に対して、形や色、材料の特徴、用途などを考えることができる。 ・今までの経験を総合的に生かして構想を練り上げることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしいテーマや表現方法を追求しながら活動できるよう支援していく。 ・見通しをもたせるための板書の工夫やICTの活用を積極的に行う。
創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> ・感じた印象や思いを実現できるよう、材料や用具の特徴を生かして表し方を工夫できる。 ・これまでに培った技能を安全や正確さに気を付けながら取り組めない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材や道具の経験を振り返ったり、構想に合わせた表現方法を選択したりできるように環境作りを工夫する。 ・様々な道具の安全な使い方を身に付けることができるような題材を工夫する。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・色や形、表現方法の工夫など、造形的な視点から互いに鑑賞し合い、友人同士感想を述べ合っている姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の多様な見方や感じ方で、作品のよさや美しさを共有し合える鑑賞の場を設定する。

6年

	現状	改善に向けての方策
造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしいテーマや表現方法で表すことを楽しみ、意欲的に活動する児童が多く見られる。 ・初めは意欲的だが根気よく最後まで取り組めない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時に参考作品や事例を提示したり、今までの経験を生かせる題材を提示したりして児童の意欲・関心を高める。 ・ICTを使い、美術作品や参考作品を見せ、様々な表現の仕方があることを伝え、つくったり描いたりする意欲を高めさせる。
発想や構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい表現や美しさを追求して取り組むことができる。 ・下描きや試作してから作業に取りかかるなど、前もって構想を練る児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの経験を総合的に生かしながら制作するような題材を工夫して提示する。 ・ワークシートやイメージスケッチを効果的に用いることで見通しをもちやすくする。
創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が表したいことに合わせて、今までに身に付けてきた技能を生かして取り 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の造形的な経験が生かせるような指導を工夫する。

	<p>組むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険を伴う道具類に苦手意識をもつ児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けてほしい技能や方法を段階を踏んで行い、材料や道具を応用的に使えるようにする。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・友人の作品や身近な美術作品に興味をもって鑑賞活動ができる。 ・自他の作品のよさを認め合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい表現であることのよさに気付く環境作りをした鑑賞の機会を設ける。 ・美術作品を鑑賞し、感じたことや思ったことを伝え合い、表現活動に生かす。

<家庭科>改善のポイント

それぞれのめあてを明確にし、達成感を味わえる活動を取り入れ、友達と協力しながら学習をすることを通して、家庭生活等で生かせるようにする。

(1) 現状

身近な題材に対する興味・関心は高いが、技能面で個人差がある。グループで計画を立てたり、教え合ったりする活動を取り入れていく必要がある。

(2) 課題

調理や裁縫などの身近な題材に対して意欲的に取り組むものの、家庭生活での経験差が目立つ。また、見通しをもって学習計画を立てたり、作品に対して創意工夫をしたりすることにも個人差が見られる。

(3) 改善策

体験や実践を伴う活動を多く取り入れ、学習したことを家庭や身近な生活で活用できるようにしていく。また、友達同士での学び合い、実物投影機や拡大図などの掲示物などを有効的に取り入れ、技能の定着を図る。

5年

	現状	改善に向けての方策
家庭生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や裁縫など、児童の身近な題材に対し、非常に意欲をもって取り組んでいる。 ・学習したことを家庭で実践できている児童が少ないことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近な題材を取り上げ、生活の場に生かせるように支援する。 ・学習したことを家庭で実践しようとする態度を育てる。
生活を創意工夫する能力	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで計画を立てたり、話し合ったりする時間では、工夫しようとしていることができる。 ・実習の中で、創意工夫ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の一員としてできることを見つけ、自分なりに課題をもったり工夫したりして活動に取り組めるようにする。
生活の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や裁縫など、確実に技能を身に付けられるような題材ではあったが、個人差が大きいことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習やグループ学習を行い、教え合いながら技能を高められるようにする。

家庭生活についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦手を把握し、見通しをもって学習計画をたてることに個人差があることが課題である。 ・ 日常生活で使用するものの名前や使い方については理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作や実習を通して、家庭生活中で生かせるようくり返し確認し、活用する場面を多く取り入れることで定着をはかる。
----------------	---	--

6年

	現状	改善に向けての方策
家庭生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な生活への興味・関心は高い。特に実習や製作への関心は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の興味・関心が高い題材を取り上げ、なるべく児童に合った教材に取り組ませる。 ・ 体験を多く取り入れ、実感の伴った学習を通して、生活に生かせるようにする。
生活を創意工夫する能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の中に課題を発見することが難しいことが課題である。 ・ 実習や製作では、創意工夫することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の中から課題を発見し、解決するための創意工夫することに取り組ませる。
生活の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製作では、個人差が大きく、全体的に技能の定着が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童にとって、分かりやすい授業を展開し、繰り返して取り組む。 ・ グループ学習を通して、技能が身に付くようにする。
家庭生活についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭科用語の定着が課題である。 ・ ミシンや手縫いの知識・理解も個人差があることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の振り返りやワークシートなどを通して、知識・理解の定着を図る。 ・ 実際に活用できる場面を多く取り入れる。

<体育>改善のポイント

基礎体力の向上に努めながら、授業の中で作戦を考える機会を多く設け工夫する力を身につける。

(1) 現状

体育の授業に対する関心はどの学年も高い。

(2) 課題

スポーツテストにも表れているが、投力、握力を向上させることが、課題である。また、運動を工夫して行える児童が少ない。課題をもって取り組むことが課題である。

(3) 改善策

授業内に固定遊具を使うことを促す。ボール運動の際、投げ方を指導し、小さいボールで投げる練習を多く取り入れる。作戦を考える時間を設けたり、工夫できる教材を使用したりして、考える場を多く増やす。それぞれの課題を明確にし、活動に取り組みさせる。また体育朝会でコーディネーションを取り入れ運動能力の向上を図る。

1年

	現状	改善に向けての方策
運動や健康安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼ごっこや表現遊びなどを通し、楽しく運動している。 ・友達と関わり、協力することの楽しさや、きまりを守ることの重要性に気付くことができている。 ・水遊びには、意欲的に取り組んでいるが、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭の遊具、ボールなど多くの教材を使用して体を動かし、男女一緒に楽しく運動できるようにする。 ・ゲーム型の運動をして、友達と協力したり工夫したりして、友達との関わりを多くの児童に気付かせる。 ・家庭とも連携し、水に慣れる機会を多く設けていく。
運動や健康安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな児童は多くいるが、どのようにすればできるようになるのかを考えられる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動きのポイントを提示したり、友達の良い動きを見つけたりする場面を設定し、自分の動きに生かせるようにする。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・走る力、ボール投げ、遊具を用いた運動遊び、水遊びなど個人差が大きい。休み時間や放課後の運動量や経験も大きく影響している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール遊び（投げる）や、遊具を用いた活動を積極的に取り入れ、向上を図る。 ・授業の始めに、体づくり運動を積極的に捉え、基礎体力向上をめざす。

2年

	現状	改善に向けての方策
運動や健康安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら取り組んでいる様子が見られる。また、体力調査のアンケートでは、体育が好きと答えた児童が大半である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しむ姿勢と共に、一生懸命に取り組んでいる姿を褒めて全体に広げることで、より意欲的に取り組めるようにする。 ・適宜、補助や励ましの声かけをすることで、苦手な運動にも取り組む姿勢を養っていく。
運動や健康安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・コツや体の使い方など、課題をもって取り組んでいない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの課題を明確にし、活動に取り組みさせる。また、児童同士で課題を解決した方法を伝え合う機会も設ける。

断		<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームでは、ルール工夫や作戦の話合いなど、自分たちで決めて進めていく力を養う活動を取り入れる。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験や日常生活での運動量の差で、上達や技の習得の速さに差が見られる。 ・全体的に投げる力や握力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の時間を長く取り、十分な運動時間を確保する。スモールステップで取り組ませることで達成感ももたせる。 ・休み時間には外でボールや固定遊具を使って遊ぶよう声をかける。 ・体づくりとして、腕を支持する力を高める活動を毎回取り入れる。

3年

	現状	改善に向けての方策
運動や健康安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・体育への関心は高く、意欲的に体を動かすことができる。 ・自分のやりたいことが優先され、素早く活動することができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の運動量を十分に確保できる指導内容を工夫する。 ・ルールを徹底し、全員で取り組む楽しさを意識させる。
運動や健康安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで工夫して運動する姿が、まだあまり見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで相談、練習する場を設定し、めあてを意識した練習方法や作戦を考えさせる。練習方法や、必要な技能が分からないチームには支援をする。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を身に付けている児童が多いが、運動の内容によって個人差は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく活動できる場を用意し、意欲的に取り組めるようにする。 ・自分の目標を明確にさせる。
健康・安全についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全についての知識が、体育の授業や生活の中に十分に生きていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の前に安全面の確認をする。 ・健康についての学習は、身近な生活と関連づけて進めていく。

4年

	現状	改善に向けての方策
運動や健康安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動への関心は高く、意欲的に体を動かすことが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全面にも目を向けられるように、日々の学習で声をかける。

運動や健康安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に友達と工夫したり作戦を立てたりと話し合いながら活動することが出来る児童が多い。 ・健康や安全について考えて行動することには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすだけでなく、必ずグループや全体で考えたり振り返ったりする時間を設定する。 ・安全に配慮して活動できたかを確認し、思考判断する方法を習得させる。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動には、課題のある児童もいる。 ・ボールゲームでは、コツをつかむのが早く、ポイントを押さえて動くことが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との学び合いや、運動のポイントを掲示しておくなどの工夫により、技能の定着を図る。
健康・安全についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全についての知識はもっているが、体育の授業や生活の中に十分に生かされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の前に安全面の確認をする。 ・健康についての学習は、身近な生活と関連付けて進めていく。

5年

	現状	改善に向けての方策
運動や健康安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動への関心は高く、楽しんで運動することができる。 ・休み時間も体育で学習したことを取り入れて活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業だけでなく、休み時間も運動に楽しく親しめるように、クラスでの運動の時間や学校全体での縄跳びや持久走の取り組みを生かす。
運動や健康安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・運動することは楽しく、進んで取り組んでいる。友達と声をかけ合い、作戦や動きのポイントを工夫して取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、運動をふり返り、めあてをもって取り組ませることで、思考力・判断力が付くと考えられる。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・持久力、投げる力には課題はある。 ・鉄棒・縄跳び・水泳・ボール運動・器械運動は個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動に取り組めるように、意識付けさせる。鉄棒や縄跳びは、日常の取り組みができるよう、学習カードの活用などが有効と考えられる。 ・また、ボール投げ・握力など、体力テストで結果が出なかった運動を意識し、授業の中に取り入れていく。
健康・安全についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生の保健の単元である「心の健康」、「けがの防止」の学習は2学期以降である。健康・安全に対する知識はあるが、実際に安全を意識して行動することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から、心の健康やけがの防止に関する意識をもたせられるようにしていく。

6年

	現状	改善に向けての方策
運動や健康安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動への関心は高く、多くの児童が積極的に体を動かしている。 ・体育の学習への意欲や態度もよく、進んで取り組むことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の機会を多くし、意欲のある児童へはさらに取り組めるよう、意欲の低い児童へも、クラスでの運動をする機会を多くすることにより、取り組みやすくする。
運動や健康安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮して行動することができているが、どのようにしたら良くなるのか考えて運動する児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の工夫を発表する場を設け、思考判断を深くできるように取り組む。 ・学習カードを活用する。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・体力測定では、握力・ソフトボール投げ・走力が課題である。 ・ボール運動は好んで行っているが、肩を大きく使ってボールを投げることや、握力を使っての運動が十分にできていないことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・固定遊具を使った握力を使う準備運動を多く取り入れる。 ・リレーや障害物競走など、楽しく技能が身に付く運動を取り入れる。 ・投げ方の指導を行う。
健康・安全についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室で、薬物の危険性や害を学んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の予防について、普段の生活に活用できるように意識させる。 ・健康についての用語や知識が身に付くように取り組む。 ・本格的な学習は3学期に行う。